

非アルコール性脂肪性肝炎モデルラットに対する SAIDO-PS501 の影響

村上真樹^{1,2} 高山房子¹ 中本賀寿夫¹ 万倉三正¹ 江頭亨¹ 今尾充子² 川崎博巳¹
岡田茂¹ 森昭胤¹

¹岡山大学医歯薬学総合研究科 ² 済度

背景 : SAIDO-PS501 はパパイヤを発酵させた天然の健康食品であり、ラジカル消去活性や酸化ストレスが関与する疾患に対する有効性が報告されている。

近年、非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)は注目すべき疾患となってきた。NASH 進展のメカニズムとして肝細胞への過剰な脂肪蓄積を伴った酸化ストレスの関与が報告されている。そこで我々は NASH に対する SAIDO-PS501 の影響とそのメカニズムを検討した。

方法 : NASH モデルラットはコリン欠乏高脂肪食(CDHF)摂食による脂肪肝形成の後、酸化ストレスを負荷することにより作成した。また NASH ラットに SAIDO-PS501 の 1%、3%水溶液をそれぞれ与えた。実験期間終了後、ラットから血液と肝臓を採取した。

結果 : NASH ラットでは血漿 ALT、AST、ALP 活性の上昇が観察された。また血清鉄、肝線維化、鉄沈着、ミトコンドリア機能障害、肝ミクロソームでの CYP2E1 誘導も観察された。しかし SAIDO-PS501 の投与によってこれらの変化は緩和された。